



「世界でも珍しい灯台のあるホテル」  
航路標識として海上保安庁が認可する  
正式な灯台が、14階のバルコニーに  
あります。

# いまでもホテルの安心を 守り続ける銅管。

阪神・淡路大震災～  
あの時、そしていま

神戸メリケンパークオリエンタルホテル



使用管種：建築配管用銅管(M) JWVA-H-101  
使用場所：給湯設備(客室ユニットバス、客用洗面所、厨房)  
使用量：4,910m、8,624.86kg

最も信頼できる銅管にこだわったことが  
最善の結果を生むことに。

平成七年一月十七日火曜5時46分。M7.3の大地震が  
阪神・淡路地方を襲った。今回お訪ねした、神戸メリ  
ケンパークオリエンタルホテルは、震災時、まだ建設中  
だった。あの災害を耐え抜き、無事に竣工にたどり着  
いた陰には、銅管の存在が大きかったと言う。当時の  
ホテル支配人だった松下氏、現在ホテルをリードする  
広報室の大岩氏お二人の会話に耳を傾けてみよう。

松下 震災の直後、オーナーから「神戸の人達を元気づけるために、なんとかオープンさせてほしい」と頼まれましたが、果たしてうまくいくのか、誰も確信は持てませんでした。しかし、調査を進めると、銅管にほとんど被害がなかったことがわかった。あの大地震を耐えぬいてくれた訳ですからね、正直、感動しました。一から配管し直すことになっていたら、まず予定通りの竣工は不可能だったでしょう。この銅管の姿を見て、皆も振るい立ったと言った大げさですが、建築会社もホテルも一丸となって工事再開に挑みました。大岩 当時のスタッフが、大地震を乗り越えてホテルを無事にオープンさせたエピソードは伝説となっています。その陰に銅管と言う頼もしい存在があったと言つても素敵なお話ですね。銅管を使うのは、当時、普通だったのですか。

松下 銅管は、殺菌性があるので衛生面も優れていますし、耐久性・施工性などでも評価が高い。お客様をおもてなしするのには、「目に見えない所にも、最高の品質に」することが大切です。だから、私としては昔から信頼

新空港誕生と共に生まれ変わる神戸。  
その象徴となれるホテルへ。

大岩 あの震災で神戸は生まれ変わりましたが、新空港誕生と共に、より開放的・国際的な都市へと、新たに変わろうとしています。現在は、空港・駅・高速道路・港を使う、国内外の多くの方が神戸を訪れています。皆様に観光・ショッピング、食事など、神戸の魅力すべてを提供できる場所へとウォーターフロントの開発が進められています。

松下 当ホテルは、震災復興のシンボルとして皆様に愛されてきましたから、これからは新生・神戸の顔のひとつとして、安心・安全・快適・ゆとりを提供していきたいですね。

大岩 はい、当ホテルは神戸の海と空にやさしく溶け合うアーバンリゾートホテルとして、多くの方に愛されています。神戸の観光の拠点、またクルージングを楽しまれる方の安らぎの場など、様々なスタイルで当ホテルを利用いただいています。全室に設けられたプライベートバルコニーやプールレストラン＆ラウンジからの眺めが素晴らしく、優雅な船旅のようなホテルライフを満喫できます。また、海が目の前に広がる会場でのプライベートも人気を集めています。

松下 より上質の満足をご提供できる、皆様の期待に応えられるホテルを目指して努力していきますよ。

大岩 そのためにも、銅管のように「目に見えない所にも最高の品質で、安心のおもてなしを…」と言つことですね。



神戸メリケンパーク  
オリエンタルホテル  
相談役 松下 衛氏



神戸メリケンパーク  
オリエンタルホテル  
広報室 アシスタントマネージャー  
大岩 祥子氏

している銅管を使うのは当然でした。そのこだわりが、震災の際に最善の結果を生むことになった訳です。